



『人生の障害物を乗り越える信仰の力』

説教者: 鄭南哲牧師

聖書: マルコの福音書2章1~12節/暗唱聖句: ヘブル人への手紙11章9節 (Rev. Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズの信仰の家族の皆さん！先週一週間も一週間も主の平安の中でキリストとともに歩めましたか。我々はそれぞれ人生の道を歩みながら、思わぬ様々な障害物にぶつかる時がしばしばあったと思います。みなさんが望んで進んで行こうとしている道に妨げる物や難関に直面したり、ぶつかる時はなかったでしょうか。物事が自身の願った通りに行かず、障害物が自分の前にあってどうしようもできなかった時はなかったのですか。我々はみな違うけれども、だれでも何度も人生の障害物に直面する時を経験して来たと思います。今日の本文の言葉には自分の前に現れた人生の障害物をどう克服し、乗り越えたのか非常に平凡な人たちの話が記録されています。

その4人の人たちの名前も知りませんが、自分たちの前に直面した障害物をこの人たちがどうやって乗り越えることができ、ついにイエス・キリストを通して回復の恵みと癒し、そして救いを頂けるのか共に本日の御言葉を通して学んでみたいと願っております。

＜ 本文の背景 ＞

本日聖書本文、マルコの福音書2章によると、当時不治(ふじ)の病と呼ばれた一人の中風患者を助けるために4人の人がかつがれてイエス様のみもとに連れて来た出来事の内容です。イエス様の当時、ユダヤ人たちは、病にかかっていることは神に罪を犯し罰せられたというような認識でした。特にこの中風患者の名前も、いつから患ったのか詳しく聖書に記されていないので分かりませんが、当時、不治の病の中風の病によって、一部ではなく、ほぼ全身体の麻痺によって、起きることすらできず、ずっと横になっていた状態だったので、きっと周りからどれほど、ひどい罪人かのように無視され、さげすまれたのに間違いないでしょう。

この中風患者と4人は実際家族関係なのか(でも家族関係だったなら、彼の親、兄弟だと一言記されたはずですが書かれていないので家族ではないようです)、同じ町で子どもごろから幼馴染(おさななじみ)の関係だったのかよく分かりませんが、この4人の人たちの彼らの切なる願いはただ一つ！中風の病(脳内の出血や脳に血管が詰まったりして流れず体の一部分が麻痺される病気)によって一生涯起き上らず、ずっと横になって苦しんで来ている、愛する友の病の癒しと回復を切に望んでいました。今まで誰一人助けられなかったこの人に、イエス様なら必ず癒して下さる事が絶対できるのだと信じて動けない友を寝かせたままの床(とこ)に乗せてイエス様のところに運んで来たわけです。

ところが今日の**本文4節**を見ると、「**彼らは群衆のためにイエスに近づくことができなかったので、**」

まず、彼らがイエスキリストに近づくのにふさいでいたのは、思わぬ大勢の群衆の多くの人たちでした。

すぐイエス様に出会い、大きな御業が起こされると期待し、思っていたのに、まず思わぬ彼らの前に大きな障害物(妨げるもの)が表わされています。もう目の前にイエス様がおられるのに、近づくのを妨害し、妨げていた群衆の存在でした！

しかし、彼らは諦めたり、やめたりしません。それで4人の友たちが考えたのは、イエス様が見える高いところの屋上を考え出しました。しかし、上がると、また屋上には屋根でふさがれています。

イエスキリストに近づく為に彼らの前には多くの群衆が、また、屋根がありましたが、また諦めないで、またその屋根までもはがし天井に穴を開けて、イエス様のところに近づこうとします。しかし、屋根をはがすと、また下のイエス様がおられるところまで下すためには、屋根から落ちるかも知れない高さの怖さと、下から多くの人々からの冷たい視線という障害物に直面しました。

しかし、苦しんでいた愛する一人の中風患者の友のために、人々の冷たい視線に気にせず、また4人の友達はひもの代わりに、自分の服まで脱いで、つないで、結ばせ、**中風の人が寝ている寝床をつり降ろし**、ついにイエス様の御前にまで下すことが出来たのです。

愛する信仰の家族のみなさん！イエスキリストの御前に近づくのに、群衆という多くの人々や屋根という物や、落ちるかも知

れない高さの怖さと人々の冷たい視線などのいろいろな障害物が目の前にあらわれても、最後まであきらめず、乗り切って苦しんでいた愛する一人の中風患者の友のために、ついにイエスキリストの御前に出て、望みの通り、求めた通りに、癒されただけでなく、罪をも赦され神の魂へのいやしと回復の恵みにあずかることが出来ました！

様々な障害物を乗り切って、ついにイエスキリストの御前に導く事ができ、結局イエス様によって、その中風病人の病をいやされ、彼の心の奥にあったすべての罪の問題も解決され、赦される神の祝福を頂きます。

旧約聖書箴言8章17節に、「わたしを愛する者を、わたしは愛する。わたしを熱心に捜す者は、わたしを見出す。」

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！今日共にこの御言葉を通して考えたいのはどうやって中風病人の4人の友たちは自分の前にあらわれた色々な難関を克服し、乗り切る事ができたのでしょうか。

<心の障害物を乗り越えさせる信仰の力>

まず結論から言いますと、それは彼らの中にあつた心の障害物をまず乗り越えたからでしょう。ほとんどの人たちは突然あらわれる難関や障害物にぶつかると、すぐ退(しりぞ)かれるか、続く人生の難関に直面すると、あきらめようとする傾向があります。挫折してしまいます。その場でべたりとすわりこんでしまいかちです。もうその場でずっと止まってしまって、前進していくことに自信感を失ってしまいます。

ところが、今日の聖書本文に出ている4人の人たちはちょっと違いました！

みなさん！今日彼らにそのような障害物を乗り切って、克服することが出来たその力はいったいどこから来たのでしょうか。

それは彼らの中にあつた切実な信仰の力にあつたと信じます。

愛するクリスチャンプレイズチャーチ兄弟、姉妹信仰の家族のみなさん！

だから、事実我々に一番恐ろしい障害物は私たちの外側にあるのではなく、我らの内側にあるではありませんか。

世界の中で一番高く険(けわ)しい山として有名なエベレスト山をご存知でしょう。そのエベレストに世界初めてその山に登って征服したエドモンド・ヒラリー(Sir Edmund Percival Hillary)という人がこう言ったそうです。

“我々が征服したのは山ではなく、自分自身でした。”

もう絶対不可能で、できないと考え込んだ自分の考え方、その不信仰や疑い、不安、恐れなどが、本当の自分たちの一番難しい難関であり、壁であり、障害物だったのではないのでしょうか。ある時は自分が障害物を克服するのに、その過程の中で自分が支払うべき代価や責任が恐ろしくて乗り越えないと思う難関もありませんでしたか。しかし我々にさまざまな難関や壁がありますが、それを乗り越えさせるのが今日彼らにあつた切実だったその信仰の力であつた事がわかります。

本文4節に、「彼らは群衆のためにイエスに近づくことができなかつたので、イエスがおられるあたりの屋根をはがし、穴を開けて、中風の人が寝ている寝床をつり降ろした。」、それに、5節には「イエスは彼らの信仰を見て」と書かれ、イエス様は彼らがいろいろな難関や障害物をあきらめず、乗り切って、イエスキリストの御前に来られたのは、彼らに「信仰」があつたからだと評価してくださいました。

自分たちに今解決できない、絶対不可能なことでも、どうしてもできない悩み、痛み、問題から、癒し、回復、救いを、イエスキリストに持って行けば、必ずイエスキリストは解決して下される、直して下される、回復させて下される、救って下されるという絶対の信仰の力が、全て彼らの目の前にあらわれた難関を切り抜けるように、乗り越えるようにさせる力となつたわけであります！

愛する信仰の家族のみなさん！人生において予想もしなかつたいろいろな難関や障害物があらわれる時があるでしょう。

しかし、それに圧倒されず、障害物から避けないで、逃げないで、退かないで、あきらめないでください。

その時こそ、イエス様に持っていけるチャンスであり、信仰の力を体験できる時ではありませんか。

信仰をしっかりと握り、信仰を立たせ、信仰によって進ませませんか。

障害物で、難関でこれからの先の道がみえない！どうすれば良いか分からない。自分にはこの問題を解決する力がないと、

その時こそ、必ずイエスキリストにこの問題を持って行けば、必ず願みて、助け、解決してくだされる信仰の力が我らを支え、解決まで導いて下さると信じます！

実は外の壁が問題ではなく、自分の中にある絶望、不安や恐れ、わずらいの為、戸惑ってしまっているのではないのでしょうか。その代わり、我らのうちにあるキリストへの信仰の力を用いて下さい。自分ではなく、神様を頼れるように、落胆や心配や不安などすべての事を乗り越え、突破し、乗り切り、解決されるように、もう一度イエスキリストを信じる信仰が自分を支え、導けるようにもう一度信じてゆだねてみませんか。

今日イエス様は中風病人を連れて来た4人の友たちを見ながらほかのことより彼らの心の信仰を見て誉めてくださった事を覚えましょう。本文5節に「イエスは彼らの信仰を見て」

今イエス様の関心は彼らの過去でどうであり、ほかのところではなく、今彼らが持っている、あらわしている彼らの信仰でした。今日神様が我々に注目し、探している事は何かと思いますか。そうです。間違いなく信仰です！

新約聖書ヘブル人への手紙11章16節にはこう書かれています。

「信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神がご自分を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならないのです。」

それでは、もう一方踏み入れて、4人の友だちはどのような信仰をもっていたので、イエスキリストに褒められ、認められたのでしょうか。

① 心を合わせ、一つにした信仰

今日の本文3節を読んでみましょう。

「人々が一人の中風の人を、みもとに連れて来た。彼は四人の人に担がれていた。」

4人が一つとなって心や力をあわせて、中風患者をイエスキリストに連れて来られたのです。

中風の人本人の一人の力では無理でした。今自身の身を支える力すらない状態でした。彼は自分一人の力ではできないこと、たれからの助け、協力が必要であることを素直に認めていたでしょう。

それに、4人の友が共に力を合わせてくれます。周りの多くの人々の冷たい視線も、環境的な難関があっても諦めず、気にせず、それを貫き、とにかくひたすらイエス様の御前まで進むことが出来ました。聖書の多くの知識がなくても、イエスキリストがどんなお方なのか詳しく知らず、信仰が深くなくても、人にもできないことが、イエスキリストの御前に持って行って、助けを、癒しを求めば、必ず、願みて下さって、この中風の友を治して、回復させて下さるとわずかな信仰だとしても、それで共に協力し、集めた信仰が、ついに大きな信仰の力を引き起し、素晴らしい神の御業を見る事が出来ました。

一人で神様の偉大な御業をまっとうすることは、なかなか多くの時間がかかり、続けられるのがなかなか難しい面があります。しかし、神様と共に神様の御心が自分の心となるように、我らは信仰によって心を一つにし、ともにする必要があります。教会の存在の目的はそれにあるではありませんか。我らの中でもお互いに一つの信仰によって、心と力を合わせ一つにするこそ、支えられ、信仰を保たれ、さらなる神の偉大な事が起こされるのをともに見ることが出来るのを今日の聖書は我らによく教えて下さっています。

新約聖書使徒の働き1章14～15節までこう書かれています。

「14彼らはみな、女たちとイエスの母マリア、およびイエスの兄弟たちとともに、いつも心を一つにして、祈っていた。

15そのころ、百二十人ほどの人々が一つになって集まっていたが、ペテロはこれらの兄弟たちの中に立って、こう言った。」
みなさん！一人でもイエスキリストを信じ、一人でも祈れますが、人生の様々な難関や障害物が現れ、ぶつかるたびに、悩み、弱まり、戸惑う時に、自分一人の力ですべて乗り切れないので、ともに支え合い、祈り合い、助け合う信仰の友が必要であるわけです。実に、今まで自分一人のすべての力で、ここまで来られたとだれが言えるのでしょうか。ここまで、実に我らはすでに多くの人々からの祈りを、助けを、支えがあってここまで歩いて来ています。

人の弱さを知っておられる神は、そのために、この地上にイエスキリストを通して、ご自身の血潮によって、神の家族のよう

な信仰の共同体なるキリストの教会を建てて下さったのです。

一番強力な祈りは、共に信仰によって、心を会わせて、共に祈る時であることを使徒の働きの初代教会の姿はよく教えて下さっています。イエス様は、新約聖書 **マタイの福音書18章19-20節**を通してこう言われました。

「まことに、もう一度、あなたがたに言います。**あなたがたのうちの二人が、どんなことでも地上で心を一つにして祈るなら、天におられるわたしの父は、それをかなえてくださいます。ふたりか三人がわたしの名において集まっているところには、わたしもその中にいるのです。**」

伝道者の書(Ecclesiastes)4章12節 **「ひとりなら、打ち負かされても、ふたりなら立ち向かえる。三つ燃(よ)りの糸は簡単には切れない。」**

信仰によって、心を一つにし、共に祈れば、素晴らしい神の御業が引き起こされる事をみなさんは信じ経験して来ていますか。毎週の我らの家の教会の牧場がそのような時となりますように切にお祈り申し上げます！

旧約のダニエル書のダニエルは、バビロンに奴隷として連れられても、目の前の火のような試練の難関を、3人の信仰の友たちと心を合わせて共に祈りつつ、乗り切りました。エステル王妃も自分の侍女(じじょ)たちと全ユダヤ人たちと共に心を合わせて、信仰によって祈ったら、死の危機(きき)からみなが救い出される神の素晴らしい御力を、神の恵みを経験する事ができたのです。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！今週も、今月も、今年も続けて家庭で、牧場で、教会で信仰によって心を合わせ、主にあって一つになってともに支え合い、ともに協力し続けましょう。その時、さらなる神の救いの尊い御業が成しとけられる為に、また私たちが豊かに用いられると信じます。

今月も我らは、信仰を立たせ、信仰によって、心を一つとなる私たちの家庭、我らの牧場となりますように、我らのクリスチャンプレイズチャーチ全体が続けて信仰によって一つとなれば、皆さんを通してまた、続けて主の素晴らしい恵みの御業が起こされると信じます。

本当に不思議ですが、動物の世界でも、馬一頭は2トンの荷物しか運べないらしいですが、馬2頭が共に荷物を引くと23トンの重さまで運べると聞いた事があるでしょう。これからも主にあって、我々みんなが信仰を持って心を合わせて、共に力を合わせて協力して行けば、これからも様々なあらわれる難関や障害物であれ、支えられ、それを貫き、乗り越えて、神様のさらなる祝福も経験できるようになると信じ、切にお祈り申し上げます。

②愛による信仰

今日の本文を見ると、すでにイエス様の周りには、数えきれないほど、多くの群衆が集まっていました。すでにイエスキリストを信じた人々も、これから信じようとした人たちもいたと思いますが、そのほとんどの群衆は、これから自分たちがどうすれば、もっと祝福されるか、自分たちがどうするば、もっとイエス様の素晴らしい御業を直接体験できるか、イエス様かから何かをもらえるのか、自己中心的にしか思っていなかったように感じます。なぜなら、その群衆の中だれひとり、この寝床に運ばれて来る中風患者に対して、その患者を運んでいる四人に対しての配慮も、助けも見えません。ただ、自分のことに夢中になっている様子ではありませんか。むしろ、まったく助けが必要な人々が目の前に現れていても、透明人間扱いをしたり、面倒くさがる存在、邪魔する存在のような冷たい雰囲気まで感じられます。

ところが、今日のこの4人たちは群衆と違いました！彼らは自分の祝福、自分の問題のことではなく、**今他人の助けがなければならぬこの中風の病人の為に、イエス様への信仰を持ってイエス様に運んで行こうとしていました。**

今日4人の友たちが大勢の群衆がまったく譲れないため、まったくイエス様のところに近づけ状態だったのにもかかわらず、あきらめず、何とか屋上まで中風病人をかつがれて上がって行きました！それでもイエス様が見えなかったので、自分のことだったなら、ここまでもしなかったかも知れません。大変失礼で、家の中イエス様に集まっていた人々から色々文句を言われても屋根をはがし、穴をあけます。それでも高さがあったので、つりおろすひもなんか準備しなかったはずですから、4人は

自分の服まで脱ぎながらも、中風患者をイエスキリストのところまで下ろしました！なぜ4人の人たちは自分のことでもないのに、そこまで無理をしながら、犠牲を払いながらして理由はどこにあったと思いますか。

この苦しんでいる中風の病人のためだからではないでしょうか。

それは4人の友たちには、**愛を込めた信仰**がありました！苦しんでいる友のため、自分のメンツがまるつぶれになっても、周りからどう見られても、どんな犠牲を払うにしても、中風の病にかかり、苦しんでいたその友を心から愛し、哀れみ深い信仰を持ったため、どんな妨げや邪魔物があっても、どんな壁があっても忍耐しながらすべてを貫き、乗り越えて結局イエス様の御前に連れて来る事が出来たと信じます。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！愛は死のように強いのだ(雅歌8:16節)と聖書に書かれています。神様が一番喜ばれる信仰、一番尊ばれる信仰は愛の動機で行なう信仰、愛で仕え、働ける信仰だと信じます！

ガラテヤ人への手紙5章6節によると、「キリスト・イエスにあって大事なものは、割礼を受ける受けないではなく、**愛によって働く信仰**なのです。」だと書かれています。

第一ペテロの手紙3章8節、「最後に言います。みな、一つ思いになり、**同情し合い、兄弟愛を示し、心の優しいとなり、謙虚でありなさい。**」

真の信仰とは愛がかならず伴います！愛のない信仰は正しい信仰ではないのです。なぜなら、我らが神の愛によって、イエスキリストの十字架の上で**最高の愛を捧げて下さったゆえに、我らが信じ、救われたものだからです！**それはすでに神の御子イエスキリストご自身が我らを救う為に十字架でご自身の命までも惜しまずに全て与えながら、全ての人々を愛された模範を見せてくださったので、その十字架のイエスキリストを正しく信じる人々は当然イエス様のようにみんな愛の信仰を持つようになるはずで**す。キリストの十字架の愛によってだれでも信仰による救いの道を開いて下さったのです。**

愛は苦しみ、悩んでいる、助けが必要な人を見逃しません！愛は自分より、他人の必要に関心を持って惜しまずに助けようとします。愛は犠牲を伴います。愛は忍耐させるようにします。愛は一つでまとまるようにします。愛は信じるように導きます。愛は絶望の中で希望をもたらし、見出します。

今日この4人の友たちに**愛の信仰がなかったならば、大勢の群衆を見たときに自分の事じゃないので、もうそこであきらめたかも知れません。この4人に愛の信仰がなかったならば、後で屋根をはがし、穴を開けた事で自分たちが弁償し、払うべき代価と責任を計算してもう冒険(ぼうけん)はしなかったはずでしょう。しかし、**真の信仰には必ず神の深い哀れみと愛を込められています。**信仰と愛が一つとなったら、今日の本文のように主がその信仰を見て、喜ばれ、神の愛の御業を体験することが出来ると信じます。**

我々クリスチャンプレイズチャーチの家族のみなさんも愛を込めた信仰者になりますように心からお祈り申し上げます。

ぜひ各家の教会の牧場が4人の友だちのように、自分の事じゃなくても、愛の信仰を持って自分の事、自分の家族のように惜しまず助け合い、仕え合う事が体験出来る愛の信仰家族共同体となりますようにお祈り申し上げます。

みなさんにはみなさんが大変な時に、苦しい時に、助けが必要な時、今日の本文の4人の信仰の友のようにどんな自分が犠牲を払っても自分のことかのように助けてくれる、支えてくれる愛の存在がいるでしょうか。

みなさんの牧場の牧者がそのような存在です。牧場の家族がそのような愛の信仰を持ってみなさんを支えてくれる神の家族、信仰の仲間たちではないでしょうか。一人では倒れやすいですが、愛と信仰を持った信仰の友がともに支え合うと大変な時、絶望しません。完全に倒れません。みなさんの牧場がぜひそのような関係の牧場となりますように、心からお祈り申し上げます！是非まだ牧場に定義的に参加されてない方は是非今週から、今月から一つの牧場に属されて、ともに愛と信仰を持って仕え合い、支え合い、助け合う事が出来ます様に是非お願い申し上げます。

③最後まであきらめず、信じ行い続ける信仰

様々な難関や障害物を克服し、乗り越えて行く為には**心と力を合わせた信仰が必要**でした。そして**愛を込めた信仰**が必要

でした。しかし実際に今日の難関を乗り越え、克服するためには当然のようですが、最後まで諦めないで続けて進み行う信仰の姿でした！ あきらめないで4人の人たちは続けて何かをしようと動いています！ 今日4人の友たちは動き始め続いています。群衆のためこれ以上進まないと思ったら、屋上に上がりました！ それでもイエスキリストが見れないし、遠かったので近づくために、屋根をはがし、穴をあけるまでにします！ それでももっとイエス様の御前に近づけるように、中風患者を寝かせたままその寝床(ねどこ)をつり下ろせるように、服をまで脱いでつなぎました。

イエス様の御前にもって行くまで、答えられるまで、あきらめず、粘り強く行い続けます！！

彼らはイエス様に誉められました！ どうしてですか。屋根をはがすほど熱心だったからでしょうか。そうではありません。イエス様はたくさんの群衆たちの中でも彼らの信仰の姿と行動、動きをずっと見て来たと思います。

多くの群衆に囲まれていたイエスキリストがずっと彼らに無関心だったのではありません。実は、ずっとほかのところに移らず、そこで彼らが来るまで、待てておられたのです！ イエス様が彼らの信仰を見て賞賛したのは彼らがいくら難関があるにしても、信仰をもって最後まであきらめなく、最後までイエス様に対する信仰の行動を見せたからでした！！ 本文2章5節に“イエスは彼らの信仰を見て”

我々は信仰を抽象的に考えている傾向があります。もちろん、信仰はまず、心の扉を開き、受け入れることなので見えませんが、しかし、その信仰を自分の口(ぐち)を通して信仰を告白します。そして行いによって自分自身の信仰を表わします。この行動で伴われてない信仰はもしかしたら、本当の信仰じゃないかも知れません。行いが伴わない信仰は聖書では死んだ信仰だと教えて下さっているので、まったく、正しい変化も、成長も成熟もするのが出来ないのです。

ヤコブの手紙2章17節では、「信仰も、もし行ないがなかったなら、それだけでは、死んだものです。」

アプリカの父だと呼ばれたリビンston宣教師の生涯信仰のスローガンはこの言葉だったそうです。

“私は神様が私に下さったこの目的を達成するまでは、決して中断しないことを決心しました！”

愛する皆さん！ 結局人の人生において一番大事なものは神様の関係の中で自身がどんな信仰の姿勢をもっているかによるのではありませんか。信仰の態度はすべての物事を肯定的に反応するように導きます。今日4人の友たちの愛に基づいたあきらめず続けられた信仰の行動によって、イエス様は喜んで彼らの友の病を癒してくださいました。そして彼もすべての罪さえも赦していただきました。

中風病人は長い歳月が辛い日々でしたが、イエスキリストと出会ってからは、かえて大きな神の奇蹟と祝福を経験した者になりました。もちろんよい仲間がいましたが、彼の一番祝福は彼の病を通してイエスキリストに出会って救われたという事です。 愛するみなさん！ 今日皆さんにはどんな問題の難関、壁、障害物の前におかれていますか。

ほかの人にはない障害物が自分の人生にあるのはきっと大変で恐れ不安になるかも知れませんが、決して信仰の中で絶望せず、自身の人生が不幸だと言わないでください。時々自分が持っている難関のため自分の夢が実現されるのに時間はもうちょっとかかるかも知れませんが、その夢を成就するのに信仰の者に決して不可能はないことを忘れないようにお願いします。

聖書をよく読んで見てください。聖書には神様の奇蹟と恵みを経験した人たちはひたすら様々な人生の難関にかかっていたためもっと神様に出て来て頼り切て、その信仰によって、人生の逆転の祝福と勝利を収めています。

みなさん！ 信仰は見上げる事です。信仰は違うように見ることです。信仰はどんな難関があってもそれを乗り越えて新しい機会と希望を見させます。どんな障害物でも克服することができるように耐え忍ばせついに貫かせます！ また始まる今週、今月も皆さんの壁の向こう側に立てられるイエスキリストを見上げましょう。前よりもっと愛と信仰によって主に近づけるようにお互いが4人の信仰の友となりますようにお祈り申し上げます。イエスキリストに近づくのに邪魔になり、妨げとなるものがあれば、もう一度信仰によって、信仰を立たせ、それを突破し乗り切て、主に近づき、みなさんがあんなに願い求めていた事が、イエスキリストを通して与えられ、癒され、回復、救いの恵みを体験する信仰の人生、信仰の家庭、信仰の牧場、我らのクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族たちとなりますように主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます。

アーメン！